



# つうしん ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊  
2023 年度 | 次隊  
エロンゴサ小学校  
吉野 葵  
2025 年 2 月 第 25 号

ひらやましょうがっこう  
平山小学校のみなさんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。

2025年が始まったと思ったら、あっという間にもう2月。今の学年、クラスもあと1ヶ月ほどで終わってしまいますね。日本の学校は3月が学年末、4月に新しい学年が始まりますが、ナミビアでは1月が新しい学年の始まりです。今日は今年1月のエロンゴサ小学校での2025年最初の登校日の様子を紹介します。

## 新しい学年のスタート！

### あさ しゅうかい 朝の集会

新年最初の登校日ということで、ナミビアでも日本の学校と同じように休み明けの集会があります。この集会にはたくさんの保護者の方も参加されていました。集会の内容は、お祈り（ナミビアの主な宗教はキリスト教です）、国歌斉唱、先生の話、学校評議員の紹介、連絡事項の伝達などです。



それから、朝の集会で今年の Prefect (プリフェクト) と呼ばれる学校内のリーダーのような役割を担う生徒の紹介がありました。この Prefect という生徒は7年生と6年生から20人ほど毎年選ばれていて、集会で全校生徒を並ばせたり、休み時間の終わりに教室へ戻って席に座るよう生徒たちに指示を出したり等、学校生活でたくさんの役割を担っています。年に1度、

この Prefect のメンバーだけで、学校から車で1時間半ほど離れたロッジへ行き2泊3日のリーダー研修をするという行事もあります。このメンバーは、生徒たちからの推薦や投票で選ばれた多くの生徒たちの中から最終的に先生たちで決定します。普段の学校生活の態度などをもとに選んでいるため、6年生になったら Prefect に選ばれたいという目標をもって、学校生活を頑張っている生徒たちもいます。



↑ 全校の前で紹介される Prefect の子供たち

## プレプライマリーの子供たち

ナミビアの小学校には、1年生に入る前の1年間、学校に通うことのできる Pre Primary (プレプライマリー) と呼ばれるクラスがあります。このプレプライマリーに入る子供たちにとっては、日本の小学校1年生に入学する子供たちと同じように、人生で初めての学校生活のスタートです。

これは私がナミビアの学校に来て驚いたことの1つでもあります。プレプライマリーの子供たちの初めての学校の日が、全校生徒の新年初登校日と同じ日なのです。日本では、先に2年生から6年生の新年度が始まり、入学式の準備が整えられ、初日は保護者の方と一緒に入学式に来て、一緒に帰りますよね。学校に慣れるまでの最初の1週間は給食なしで早帰りだったり、6年生が学校生活の色々なことを教えてくれたりもしますね。でもナミビアでは、初めての登校日から全校生徒と一緒に朝の集会に出て、初日から通常通りの下校時間まで教室で過ごします。保護者の方は教室に入るまで付き添い、その後すぐに帰ります。ここでは当たり前なことなのかもしれませんが、プレプライマリーの子供たちが、保護者の方と離れるのを嫌がったり、泣いたりすることもなく、初日から学校生活に溶け込んでいることに少し驚きました。



↑ 初めて教室に入るプレプライマリーの子供たち

## クラス替え

エロンゴサ小学校はどの学年も50人近くの子供たちが在籍していますが、教室の数が足りないため全年を2クラスに分けることができません。様々な点を考慮し、今年は5年生と6年生だけを2クラスに分けることになりました。4年生の頃からずっと2クラス体制だった今年の7年生(最高学年)は初めて1クラスにまとまりました。50人近くの子供たちが狭い教室内で一緒に過ごすとなると、子供たちはもちろん、授業をする先生たちにとっても色々大変なことが多いです。



↑ 教室の前に並ぶ7年生の子供たち



↑ 新クラスへ移動する子供たち